

2021/08/15

ヨハネの福音書 講解メッセージ⑥3

『見ずに信じる者は幸いです』ヨハネ 20:19-31

■平安があなたがたにあるように

「その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」(ヨハネ 20:19-21)

イエス様の処刑後、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、部屋の中に閉じこもっていました。これは、まさに今の私たちの姿です。

人は例外なく、何かを恐れて、心の戸を閉ざしています。それは、「こんな自分が愛されるはずがない」と思っているからです。その不安によって、本当の自分が人の目に触れることがないように、閉じ込めて隠し、少しでも良く見てもらおうとして、自分を着飾ります。これが、私たちの苦しみです。私たちは、本当はここから出たいと願っています。出るためには、ありのままに愛されることを知る必要があります。

この時、弟子たちはユダヤ人を恐れてしっかりと戸を閉めていました。にもかかわらず、イエス様が彼らの中に立たれたというのです。これは、神の前に心を閉ざしても無駄だということを示しています。なぜなら、イエス・キリストは、私たちの土台だからです。どんなに心を閉ざそうとも、イエス様はあなたの心の中に立たれます。そして、「平安があなたがたにあるように」と声をかけられるのです。

弟子たちは、イエス様を裏切り、マリヤの言葉を信じることなく、ユダヤ人の目を恐れて隠れて生きていました。私たちの感覚では、「わたしがよみがえると言ったことばをなぜ信じなかったのか」と責められてもおかしくない場面です。しかし、イエス様はそれらのことには一切触れず、ただ「平安があなたがたにあるように」と言われました。そればかりか、ご自分の手の釘を打たれた跡と、わき腹を槍で刺された跡をお見せになりました。イエス様は、弟子たちが復活を信じられるように、助けてくださったのです。神は私たちに寄り添ってくださる方なのです。そして、イエス様は、再び「平安があなたがたにあるように」と励まし、さらに、「わたしがあなたを遣わす」と、ビジョンを与えてくださいました。

■過去を振り返らないために

イエス様は、弟子たちの過去に一切触れませんでした。これは私たちに、過去を振り返ってはならないことを教えています。なぜなら、神の目にあなたの罪は許されているからです。

私たちは、つい過去を悔やんでしまいましたが、そうではなく、前を見て生きていきなさいと、神様は教えておられるのです。

放蕩息子のたとえの中で、放蕩息子は、自分の犯した罰を受ける決心して帰ってきましたが、父はそのことには一切触れませんでした。同じように、この時の弟子たちも、誰一人責められることなく、イエス様の励ましを受けました。そして、その後のパウロも、同じ体験をしています。

「兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えることはありません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標をみざして一心に走っているのです。」(ピリピ 3:13-14)

過去を振り返らないために、次の3つのことを心に留めましょう。

1. 過去を赦す

人を「赦せない」と思えば思うほど、自分を追い込み、つらくなります。赦すことは、あなたを過去の束縛から解放してくれます。

2. 後悔しない

人生で後悔しない人や、過ちを犯さない人はいません。しかし、後悔だけでは、前に進めなくなってしまいます。イエス様は、私たちに、どんな失敗をしようが、過ちを犯そうが、後悔しなくていいと教えています。それは、神はすべてを働かせて益と変えてくださるからです。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」
(ローマ 8:28)

3. 赦されている

あなたの過去は、すでに赦されて、受容されています。このことを、神との和解が成立していると言います。平和条約が締結されているようなものです。過去にどのようなことがあろうとも、すべて帳消しにされていますから、後ろを見る必要がありません。

■聖霊を受けなさい

「そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」
(ヨハネ 20:22)

弟子たちはすでに聖霊を受けていました。聖霊を受けていなければ、誰もイエス様を信じ

ることはできません。すでに聖霊を受けている弟子たちに、あえて「聖霊を受けなさい。」と言われたのは、なぜでしょうか。イエス様は、聖霊について次のように言っておられます。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」(ヨハネ 14:26)

聖霊は、神の言葉が理解できるように助けてくださいます。これまでは、イエス様が弟子たちに直接神の言葉を教えてきました。しかし、イエス様が天に帰られるにあたって、今後は、聖霊があなたがたを導くと言っておられるのです。聖霊を受けよとは、これからは聖霊にバトンタッチするから、聖霊に従いなさいという意味です。そして、これが信仰の義につながっていくのです。信仰の義とは、信じることで神の平安を得るようになるということです。

「あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」(ヨハネ 20:23)

聖霊様は、私たちに神の言葉を思い起こさせ、福音を信じることができるように助けます。福音とは、「あなたの罪は赦されているから、後ろを振り向かず、平安であれ。」ということです。

イエス様が「あなたがたが罪を赦すなら…」と語っておられるのは、「あなたがたがその福音を伝えていくなれば」ということです。罪が赦されるという神の福音を語っていくなら、その人は、後ろのものを忘れ、前を見て生きていくことができるようになります。こうして、過去から解放されるのです。しかし、この福音を語らなければ、その人はいつまでも過去に縛られて生きていくことになります。

■信じる者になりなさい

「十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らといっしょにいなかった。それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません」と言った。」(ヨハネ 20:24-25)

イエス様が現れた時、その場所にはいなかったトマスは、仲間の言葉を信じることはできませんでした。彼の「実際に触れてみなければ信じない」という態度は、現代の私たちの姿と重なります。福音を聞いても、素直に信じることができる人ばかりではありません。

「八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように」と言われた。それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」(ヨハネ 20:26-27)

イエス様は、再び弟子たちの前に現れました。私たちがいくら戸を閉めても、何度でも神様は現れて励ましてくださるということです。それは、私たちに平安を与えるのが神の計画だからです。神の計画に、罰を与える計画はありません。

イエス様はトマスに、ご自分の手とわきを示されました。神は、私たちが信じることができるようになり、平安が来るまで寄り添ってくださるのです。神様は、たとえ私たちがつぶやいても、さばくのではなく、信じられるように助けてあげようと寄り添うお方です。どんなに心を閉ざしても、悲しみの中にあろうとも、平安が得られるように、励ましてくださるのです。

どんなに私たちが恐れ、心を閉ざして閉じこもったとしても、私たちの土台である神と離れることはできません。ですから、神は私たちに語り掛け続けておられます。私たちは神を見ることができず、意識することができませんから、神が私たちに語り掛けるのは、潜在意識に対してです。潜在意識を意識できるようにするためには、顕在意識に理解できるものに翻訳する必要があります。それが聖書です。

絶望したとき、悲しみを覚えたとき、聖書を開いてみましょう。きっとあなたの心に突き刺さることばに出会うでしょう。それが、神があなたの奥底で語りかけていることばが翻訳された瞬間です。聖書の言葉を通して、神の励ましをしっかりと受け取ることができるのです。

姿を現さずとも、神が私たちのいのちの土台ですから、イエス様は心の奥底（無意識あるいは顕在意識）で語り掛けておられます。どんなに絶望の中にも、神のことばを受け取るならば、平安を手にすることができます。

「トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」(ヨハネ 20:28)

この時、トマスは、神が目のおられるということがはっきりとわかりました。このように、すべての弟子が復活を信じるようになるまで、イエス様は寄り添われたのです。

■見ずして信じる者となれ

「イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」(ヨハネ 20:29)

神様は私たちが信じるができるように、見えるところまで寄り添ってくださいます。しかし、神様が最終的に私たちに求めておられることは、見ずして信じることです。それが信頼を増し加えるということであり、神を愛するという事です。

ここで、私たちが戦うべき敵がはっきりと示されました。それは、不信仰です。

あなたは、何と戦って生きているのでしょうか。私たちが苦しめているのは、この世界のものではなく、不信仰です。自分に平安がないのは、人や物理的な問題のせいではなく、神の言葉を信じ切ることができないという不信仰のせいです。そのことに気づくことができれば幸いです。

では、私たちは何を信じるべきなのでしょう。

1. すでに神に愛されていること

神に仕えるから愛されるわけではありません。あなたがどんな者であっても、神は初めからあなたを愛しておられます。「こんな私であっても愛されている」、そのことを教えるために、イエス様は十字架に架かれたのです。あなたが神を知る前から、あなたは神に愛されています。

2. すでに赦されている

すでに赦されているということは、過去ではなく、今を見なさいということです。今、あなたを支えているのは誰なのか、そこに目を向けるのです。それは、イエス・キリストです。あなたはすでに赦され、和解は成立しています。

3. すでに永遠のいのちを持っている

永遠のいのちは、これから受け取るものではなく、私たちはこの地上ですでに永遠のいのちを手にしてあります。つまり、肉体の死は通過点に過ぎません。

「すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」」(ヨハネ 6:28-29)

私たちのすべきことは、イエス・キリストのことばを信じることです。それが、神を愛するという事です。

そして、これらのことを信じるということは、私たちが苦しめている原因を取り除くということでもあります。キリストのことばを信じることで、私たちの苦しみは癒やされるのです。

イエス・キリストは救い主であり、私たちの苦しみをいやす癒やし主です。イエス様は私たちが愛し、赦し、永遠のいのちを持っているというメッセージを語られました。そして、ご自分の体の一部として、何があっても私たちに寄り添ってくださいます。

「この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」(ヨハネ 20:30-31)

イエス様が神であり、私たちの救い主であることを信じること。イエス様が私たちの苦しみを取り除いてくださると信じること。そして、それによって私たちは新しいいのちを得ること。これが、私たちが信じることを目指す内容です。

このヨハネの福音書は、私たちをいのちに至らせる話です。この福音を届けてくださったのがイエス様であり、イエス様こそが聖書で昔から語られている救い主であると信じるのが、この書が書かれた目的です。

私たちはイエス・キリストの復活をこの目で見たわけではありません。けれど、聖書の言葉を通して、それを信じるかとチャレンジを受けています。ぜひ疑わないで信じ、平安を得ましょう。私たちを平安にするのは、神のことばだけです。神のことばを信じるのが私たちの平安の糧です。神のことばを信じて不信仰と戦いましょう。